

ロシア 東欧 経済速報

(社)ロシア東欧貿易会

2004年(平成16年)8月15日号 No.1303

目次

●最近の対口中古車ビジネス事情	芳地 隆之 1
●エトセトラ	5
『調査月報』2004年8-9月号のご案内 / 5	
新刊案内『現代中央アジア論 変貌する政治・経済の深層』 / 6	
EBRD / JICA / 慶応大学共催の国際ICT政策セミナー / 6	
●ロシア東欧貿易会関連の行事予定	7
●CIS・中東欧諸国通貨の為替レート	7

最近の対口中古車ビジネス事情

はじめに

当会『ロシア東欧貿易調査月報』2004年4月号で報告したとおり、2003年の日口貿易はソ連解体後、最高額を記録した。なかでも日本の対口輸出の伸び(前年比87.2%増)は目覚しく、これをもたらしているのが自動車輸出の急増である。10年落ちの中古車でも日本製なら他国の新車以上に走る。こうした評価がロシア極東に瞬く間に広がって、多種多様な日本車が同地域の自動車市場を席卷するにいたったのは周知のとおり。日本の港に資材を荷揚げしたロシアの大型貨物船が代わりに大量の中古車を積んで帰っていく光景も、めずらしいものではなくなった。当会にもロシアへの中古車輸出に関する実務的な問い合わせが寄せられている。そこで今回は、ロシア極東における中古車ビジネスの現状について報告する。なお、本文を書くに当たっては、富山県貿易・投資アドバイザーである野村允氏のレポート「対口貿易の変化と北陸 富山県の対口中古車輸出を中心に」(『環日本海ジャーナル』2004年5月号)ならびに旧ソ連時代より中古車ビジネスに携わっておられる「株式会社もり」の森善二社長のご説明を参考にさせていただいた。